

ほとけの心フォトコンテスト

プリント部門では、仏の教えにちなんだ“31の文言”に合う写真を、WEB部門では“手を合わせたくなる瞬間”をテーマにした作品を公募します。入選作品は、瑞巖寺・平等院・築地本願寺の三会場で展示され、国内外30万人以上の方々にご覧いただく予定です。また、入選作品を収録した写真集冊子(フォトブック)の製作も行います。

どなたでもご応募いただけます。皆さまの心に響く一枚をお待ちしております。【締め切り: 2026年8月31日(月) 必着】

コピー可 応募票【プリント部門】

-ほとけの心フォトコンテスト-

ふりがな		
氏名	年齢	
住所 〒		
電話番号		
文言の番号・テーマ	撮影場所(寺院名等)	
番		
当コンテストをどこでお知りになりましたか? 雑誌『フォトコン』・その他雑誌・学校・ 寺院()・協会HP・その他のサイト		

・トリミング加工 あり・なし

・ご使用のカメラ(任意):

・当協会からのご案内を希望される方は
公式LINEアカウントにご登録ください



仏教伝道協会
公式LINEアカウント

- 【プリント部門(三十一文言)】
- 心を大空のように限りなく
 - 海はいかなる川も拒まず
 - 福の種を植える
 - 一隅を照らす
 - すべてかりもの
 - 荒々しいことばを言うな
 - 水の上の文字は
流れて形にならない
 - さとの花を摘み
道の果実を取る
 - 刹那に生じ刹那に滅す
平常心は道
 - いたるところに師あり
 - 百歳の寿命も一日の生に及ばず
 - 根深ければ枝しげし
 - 欲の火を避け
 - 怒りに等しい罪悪はない
 - 虚仮不実の我が身
 - 泥中の蓮
 - 散る桜 残る桜も 散る桜
怠けて眠りにふけらない
 - 前後際断

【WEB部門(テーマ)】
手を合わせたくなる瞬間

私たちは、日々の暮らしの中でふと手を合わせたくなる瞬間に出会います。美しい自然、いのちの気配、誰かの思いやり。仏教では、それらに「尊いと感じる心」として大切にしてきました。あなたが出会った、その一瞬を写真に込めてみませんか。

募集要項の詳細・文言の意味
過去の入選作品は上記の
QRコードからご覧ください

- 近くして見難きは我が心
- 堅い岩は風に揺るがない
- 鳥のさえずりが教えを説く
- 一雨普潤
- 月は常に満ちている
- 雪中送炭
- 二つの偏りから離れる
- 水多きに水多し
- 一塵のなかに
無量の諸仏まします
- 29 湯愛は煩惱が芽をふく湿地
心の凹凸を平らにする
- 30
- 31
- 28
- 27
- 26
- 25
- 24
- 23
- 22
- 21

プリント部門

仏の教えにちなんだ31の各文言に合う写真 ※横位置カラー(5MB以上) / 1人5点まで

【題材】自然風景、動・植物や花等のネイチャーフォト、工芸品等の静物、抽象写真 ※人物不可、ドローン撮影不可、AI生成画像不可

【応募方法】送り先 〒108-0014 東京都港区芝4-3-14 公益財団法人 仏教伝道協会 フォトコンテスト係

・1人5点までご応募いただけます。5つの文言に対し1枚ずつ、1つの文言に対し5枚、どちらでも結構です。

※他のコンテストなどに応募中や応募予定である作品、または過去に入賞した作品は応募できません。

・キャビネサイズ(127mm×178mm/2L判に相当)にプリントしたものを封筒等に入れ、郵便または宅配便にてお送りください。【応募締切: 2026年8月31日(月) 必着】

※データ(メール、CD-R等)では受け付けていません。必ずプリントしてください。

※上記応募票に必要事項を記入の上、作品裏に天地が判るようテープ等で貼付しご応募ください。

応募票は当協会ホームページからもプリントできます。

・応募した写真が別の文言で入選する場合もございますので、予めご了承ください。

・応募作品の返却は致しません。審査後、当協会にて適切に処分致します。

【審査】当協会選考委員会にて選出。なお、審査や入賞などに関するお問い合わせにはお答えできません。

丸林正則氏(写真家)・杉全泰氏(写真家)・金子美智子氏(写真家)・樺村修治氏(写真家)



写真集冊子イメージ

WEB部門



WEB部門は協会HP (https://www.bdk.or.jp/photo_contest/2026_entry.html) よりご応募ください

テーマ「手を合わせたくなる瞬間」 ※Google フォームより投稿(10MB以下) / 1人1点まで

※人物不可、ドローン撮影不可、AI生成画像不可【スマートフォン等で撮影の写真は応募可】

※審査: 当協会事務局によるデータチェックの後、上記の選考委員会にて選出。

スマホから直接応募の方はこちら→



賞金

総額42万円

【プリント部門】賞金1万円×31点 ※入選者のみに電話または郵送にてお知らせします。

【WEB部門】賞金1万円×5点 ※入選者のみに当協会よりメールにて連絡いたします。写真展での展示は入選作のうち1点のみ。

他、「瑞巖寺賞」・「平等院賞」・「築地本願寺賞」(予定): 各賞1万円×3点

また写真展会場にてアンケートを実施し、「MVP(Most Valuable Photo)」を選出: 賞金3万円×1点

※入選発表コンテストの結果は、当協会のホームページ(2026年11月)に掲載します

※入選作品の著作権は撮影者に、版權は当協会に帰属します。当協会は入選作品を無償で使用する権利を有します。入選作品は主に以下の目的で使用します。当協会主催の「写真展」にて展示。その他新聞・雑誌広告、ポスターなどの印刷物、またホームページなどのwebコンテンツとしての二次利用など。また当協会の裁量で撮影者の氏名を表示したり、トリミング等の加工を行う場合があります。

【注意事項】個人・法人が所有・管理、あるいは権利を保有する被写体が含まれる場合、その被写体の権利所有者に承諾をいただいでください。他人の著作権、肖像権等を侵害するような行為が行われた場合、それに関するトラブルの責任は一切負いかねます。また、そのような作品の入選が判明した場合は、入選を取り消させていただきます場合があります。また応募作品は応募者本人が撮影し、全ての著作権を有しているものに限りません。他人の名前を使用した場合は失格になります。入選・落選を問わず、取得した個人情報については、当コンテストの事業運営およびそれに関わる目的にのみ使用し、他の目的には使用致しません。公益財団法人 仏教伝道協会の個人情報の取扱いに関する詳細については、当協会ホームページ「個人情報保護に関する基本方針」、「個人情報の利用目的」をご参照いただきますようお願い致します。



文言の意味と出典

【プリント部門】

- 1: 心を大空のように限りなく 【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
人は、心を大地のように広く、大空のように限りなく、大河のように深く、なめした皮のように柔らかに養わなければならない。
- 2: 海はいかなる川も拒まず 【出典】ことわざ
度量の広い人物が寛大なのをたとえたことば。
- 3: 福の種を植える 【出典】『和英対照仏教聖典』仏教伝道協会
福の種をまく田地といふべき供養の機会を見て信仰心が起き、もの惜しみの心を捨てて施したのである。まことの富とは財物ではなく、心である。
- 4: 一隅を照らす 【出典】最澄『山家学生式』
直径一寸の宝玉が国の宝なのではない。一隅にあって照らしている人、それこそ国の宝なのである。
- 5: すべてかりもの 【出典】お寺の掲示板大賞（広島県・超覚寺）
「かりもの」とは「借り物」であり、「私のもの」という執着から離れるための法語と味わえます。しかし、「かりもの」を「仮（の）もの」と読むとどうでしょう。また違ったとらえ方ができそうな、そんな妙がある言葉です。
- 6: 荒々しいことばを言うな 【出典】『法句経』
荒々しいことばを言うな。言われた人々は汝に言い返すであろう。怒りを含んだことばは苦痛である。報復が汝の身に至るであろう。
- 7: 水の上の文字は流れて形にならない 【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
水に書いた文字のような人とは、水の上に文字を書いても、流れて形にならないように、他人の悪口や不快なことばを聞いても、少しも心に跡を留めることもなく、温和な気の満ちている人のことをいう。
- 8: さとりの花を摘み 道の果実を取る 【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
ともにわたしの教えを守り、ともに学び、ともに修め、励ましあって、道の楽しみをともにせよ。
つまらないことに心をつかい、無駄なことに時を費やさず、さとりの花を摘み、道の果実を取るがよい。
- 9: 刹那に生じ 刹那に滅す 【出典】『雜阿含經』
一切行は無常であり、生滅の法である。生ずれば滅する。瞬間ごとに生滅を繰り返していること。一刹那の短時間の内に生滅のあること。すなわち万物は刹那刹那に生じては滅し、滅しては生じて連続していることをいう。
- 10: 平常心是道 【出典】無門慧開『無門関』
ふだんの気持ちがあるまま道だ、という意。
- 11: いたるところに師あり 【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
心さえあれば、目の見るところ、耳の聞るところ、みなことごとく教えである。
- 12: 百歳の寿命も一日の生に及ばず 【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
たとえ百歳の寿命を得るも、無上の教えに会うことなくば、この教えに会いし人の、一日の生にも及ばず。
- 13: 根深ければ枝しげし 【出典】日蓮『報恩抄』
樹木の根が土に深く根ざしていれば、それだけ枝も大きく繁る。
- 14: 欲の火を避ける 【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
さとりを得ようと思うものは、欲の火を避けなければならない。干し草を背に負う者が野火を見て避けるように、さとりの道を求める者は、必ずこの欲の火から遠ざからなければならない。
- 15: 怒りに等しい罪悪はない 【出典】『入菩提行論』
このあとに「忍耐に等しい修養はない。」と続く。怒りは「瞋恚」ともいわれる三毒のひとつ。身心を熱惱せしめ諸悪行を起こさせる。
- 16: 虚仮不実の我が身 【出典】親鸞『正像末和讃』
浄土の真実の教えに帰依しているけれども、このわたしがまことの心をもつことなどあり得ない。
嘘いつわりばかりのわが身であり、清らかな心などあるはずもない。
- 17: 泥中之蓮 【出典】ことわざ
蓮はきたない泥の中で清らかな花を開くところから、悪い境遇の中にあっても、なお清らかさを保つものたとえ。
煩惱の汚れを脱して、清らかな自分を現わすものたとえ。
- 18: 散る桜 残る桜も 散る桜 【出典】名句（良寛）
江戸時代の曹洞宗の僧侶で、歌人でもあった良寛和尚の辞世の句と言われている歌です。意味は、「今どんなに美しく綺麗に咲いている桜でもいつかは必ず散る。そのことを心得ておくこと。」というように受け取れます。
- 19: 怠けて眠りにふけらない 【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
出家者がしなければならないことは何であるか。慚と愧をそなえ、身と口と意による三つの行為と生活を清め、よく五つの感官と意を守って、享楽に心を奪われない。また、自分をたたえず、他人をそしらず、怠けて眠りにふけることがない。
- 20: 前後際断 【出典】沢庵『不動智神妙録』
前（過去）と今、今と後（未来）の際を切り離して今を生きよ、という意味。
- 21: 近くして見難きは我が心 【出典】空海『秘蔵宝鑰』
自分の心というものは最も身近にありながら、これほど捕らえ難いものはない。
これに対して自己の仏は微細にして、しかも世界のすみずみまで遍満しているものである。
- 22: 堅い岩は風に揺るがない 【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
堅い岩が風に揺るがないように、賢者はそしられてもほめられても心を動かさない。
- 23: 鳥のさえずりが教えを説く 【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
まことにこの国は、さとりの楽しみが満ちみち、花の光は智慧をたたえ、鳥のさえずりも教えを説く国である。
まことにすべての人びとが生まれようと願うべきところである。
- 24: 一雨普潤 【出典】禪語
雨は、あらゆる草木を同じように潤してくれます。恵みの雨によってこそ、どんな草木も木も育ってゆきます。
人は正しい教えを受けることによって成長してゆきます。良き教えを学んでゆきましょう。
- 25: 月は常に満ちている 【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
人びとは月が満ちるとか、月が欠けるとかいうけれども、月は常に満ちており、増すこともなく減ることもない。
仏もまたそのように、常にあって生滅しないのであるが、ただ人びとの見るところに従って生滅があるだけである。
- 26: 雪中送炭 【出典】徳行『四字経』
緊急時に救いの手を差延べるととえ。「雪中に炭を送る」と言う。「雪中の炭」は、緊急援助物資の意。
- 27: 二つの偏りから離れる 【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
道を修めるものとして、避けなければならない二つの偏った生活がある。その一は、欲に負けて、欲にふける卑しい生活であり、その二は、いたずらに自分の心身を責めさいなむ苦行の生活である。この二つの偏った生活を離れて、心眼を開き、智慧を深め、さとりに導く中道の生活がある。
- 28: 氷多きに水多し 【出典】親鸞『高僧和讃』
「罪や障（さわ）り」は、そのまま功德のものになるのです。その関係は氷と水のように、氷が多ければ多いほど、溶けたときの水は多くなります。同じように罪や障りが多ければ多いほど、後に得られる功德も多いのです。」
- 29: 一塵のなかに無量の諸仏あります 【出典】道元『正法眼蔵』
仏法普遍の真実、一塵そのものに無辺の真実をみるのであり、一塵そのものに無量の真実に生きる仏のあることをみるのである。
さらには一草・一木も単なる草木ではなく、仏法なる真実の身心そのものにほかならないのである。
- 30: 渴愛は煩惱が芽をふく湿地 【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
渴愛は煩惱の王、さまざまな煩惱がこれにつき従う。渴愛は煩惱が芽をふく湿地、さまざまな煩惱を生じる。渴愛は善を食う悪鬼、あらゆる善を滅ぼす。
- 31: 心の凹凸を平らにする 【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
だから正しい教えは、実にこの地上に、美しいまことの団体を作り出す根本の力であって、互いに見いだす光であるとともに、人びとの心の凹凸を平らにして、和合させる力でもある。